

すこやか

84

2021.2

～地域になくてはならない病院になる～

特集2

夜間救急に対する入院環境の強化を図る、 オーバーナイトベッド

- 理事長・院長 ごあいさつ
- 連携クリニックの紹介 「福井クリニック」
- おすすめ情報 手打ちうどん大八



特集1

「心臓」の病気の検査・治療と予防まで
新センターを立ち上げ、
地域を支えます。

循環器病センター

ごあいさつ

“2021年を迎え”

皆様には、爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。
昨年は年初よりコロナ禍が全世界を覆い尽くし、社会にとって大変な一年となっしまいました。年を越した今なお、その戦いは続いています。当院では、いち早く特別感染対策チームを立ち上げ、隔離室の設置、自院での遺伝子検査の導入など、徹底した感染症対策を講じて、安心安全な医療提供に努めて参りました。また、たくさんの方々から応援メッセージ、支援物資のご提供を頂きました。改めて心から御礼申し上げます。お陰様で当院はその機能を低下させることなく、救急受け入れ件数は過去最多を記録するなど、医療活動の提供を維持することができました。

本年は、引き続き万全の感染症対策を講じつつ、さらに機能の高度化を促進し、センター化を促進してまいります。診療部門では、従来の「救急センター」、「消化器センター」、「内視鏡センター」、「認知症疾患医療センター」のさらなる充実を図るとともに、新たに「循環器病センター」が開設され、心臓カテーテル検査、治療が始まります。

“センター”とは、ある病気に関わる複数の診療科、看護、検査など多くの部署が協力して、一つのチームとして高度な医療を提供するものです。これにより診断から治療まで、スムーズに、一貫した質の高い医療を提供する事が実現可能になります。また支援部門では「地域医療総合支援センター」が、受診から入院、退院、在宅に至るまで、医療・介護・予防・生活支援の各機関とも緊密な連携を取り、患者さま、ご家族が安心して住み慣れた地域で過ごしていただけるよう、総合的な支援をしております。

神戸百年記念病院は24時間365日、信頼され満足される高度な医療をご提供し、“地域になくてはならない病院”として、皆さまがいつも笑顔で健やかにお過ごしになれますよう、職員一同、一丸となって努力を続けてまいります。

本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。

理事長
田中 岳史



旧年中は、地域の皆さま、地域医療関係者の皆さま、大変お世話になりました。

2020 年はオリンピックイヤーを迎える素晴らしい一年になることを期待して始まりましたが、ご存じのとおり日本国内においても新型コロナウイルス感染症が広がり、オリンピックは延期となり、この兵庫県においても大きな影響を及ぼし、今現在でも感染の拡大が続いています。

地域の医療においても、この例を見ないウイルスの影響を受け通常の診療体制を継続することが困難を極めました。当院も例にもれず救急の受け入れを一時はストップせざるをえない状況に迫り込まれましたが、特別感染対策チームを組み、6月15日からはコロナユニット（隔離室）を立ち上げ、救急診療の受け入れを開始しました。コロナユニットがあることで、コロナ感染が疑われる患者さまと、そうではない患者さまを判別し、受け入れる体制が整備されたことで、救急隊の皆さまにもご協力いただきながら、地域の救急医療を担うことができました。改めて感謝申し上げます。

地域の皆さまにおいても、必要な医療が受けられるように、また、予防医学として健康診断、人間ドックが安心して受けられるように、安全面を最優先とした感染症対策を継続し、“地域になくてはならない病院”として、皆さまの健康を支えられるよう職員一同取り組んでまいります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

院長
朝田 尚宏



最新のアンギオ(血管造影)装置を導入。
「心臓」の病気の検査・治療と予防まで
新センターを立ち上げ地域を支えます。

インタビュー：

循環器病センター長 水口 幸生 医師

Interview: Doctor Yukio Mizuguchi

■ 地域の循環器診療を支えるセンターを開設。新しくアンギオ(血管造影)装置も導入します。

循環器病センターとはその名の通り、「循環器」に関する病気に対し、総合的な診療を行う部門です。血液のめぐりに関係する臓器を、「循環器」といいます。私たち「神戸百年記念病院 循環器病センター」では、循環器

に関する病気の検査と治療から、循環器の病気になる前の段階、予防医療までを診療範囲にします。循環器のエキスパートたちが、地域における循環器診療を専門的に担うことを目指しています。



命に関わる循環器の病気だからこそ、 早期に発見・治療する

循環器の病気は、さまざまな病気の結果として起こる病気があります。たとえば、比較的身近な病気として、高血圧や糖尿病、脂質異常症（以前は高脂血症などとよばれていました）などのいわゆる生活習慣病などです。これらは一生つきあっていく病気であり、場合によっては循環器の病気のリスクをとっても高めてしまうものでもあります。高血圧を例にとっても考えると、血圧の高い状態が続くことで、血管には大きなダメージが生じます。自覚症状が無いにも関わらず、血管そのものが細くなるような変化が起ると、やがて狭心症や心筋梗塞、脳梗塞など、命に関わる循環器領域の病気になります。糖尿病や脂質異常症も同様で、血液内の糖分や脂質のバランスの悪い状態が続くと、血管の内側にはプラークと呼ばれる固まりができ、やはり狭心症や心筋梗塞の原因になるのです。

心臓の病気は、早期発見（診断）・早期治療がとても大切です。循環器の病気を発症した後ではなく、その前の予防の

段階から関わっていく必要があります。そのためには、エキスパートである医療者や設備が整った、「センター機能」が必要なのです。

新たに導入する アンギオ(血管造影)装置で、 低侵襲なカテーテル検査・治療を実践

これまでも当院では、循環器領域での診断や内服薬の治療は行っていましたが、心臓のカテーテル検査や治療は行っていませんでした。これが一番大きな「新しく始めること」だと思います。

心臓カテーテルは、検査と治療の両方に使える手技です。足や手の血管から、細くて長いカテーテルを、心臓を栄養する血管まで挿入し、検査や治療を行います。

このとき、術後の出血や痛みなど、患者さまの体への影響が比較的少ないことから、手の血管から挿入の方が低侵襲であるといわれています。当院の循環器病センターでは基本的に、低侵襲治療を目指しており、手の血管からのカテーテルを行っていく方針です。

患者さまとのコミュニケーションを大切に、 「全身を診る」ことを実践し、 心のかよった循環器病センターを目指します

私は日常診療の中で、「患者さまの全身を診る」ことを心がけています。血液検査などのデータはもちろんですが、患者さまとのコミュニケーションを大事にし、「患者さまの訴え」を中心に診療を進めています。他院で心臓の病気の可能性を指摘された方はもちろん、「心臓の病気かどうか分からないけど」という方でも気兼ねなく受診していただき、予防も含めて対応していけるようなセンターにしていきたいと思っています。

私自身はこれまで、内科、一般内科、循環器内科での診療経験があり、心臓カテーテル治療は700件以上の経験があります。循環器病センターが実際に稼働を始めるのは2021年2月です。現在はこれまでの自分自身の経験を活かし、循環器病センターの開設に向けて、医師、看護師、放射線技師など、エキスパートを育てるための教育などの活動もしています。

センター自体を新たに立ち上げることになりますから、スタッフ全員が真剣です。お互いが積極的に意見を出し合い、議論しながら、実際の運営をシミュレーションしています。チーム一丸となって、この地域の循環器医療に貢献したい、その気持ちで取り組んで参ります。

Dr's Profile

水口 幸生 医師

■ 専門／得意分野

内科、循環器内科、心臓カテーテル、心エコー

■ 略歴

平成14年3月 香川大学医学部 卒業

平成14年4月 徳島大学附属病院

平成15年4月 独立行政法人国立病院機構 東徳島医療センター

平成22年4月 兵庫県立姫路循環器病センター

平成23年4月 医療法人社団さくら会 高橋病院

令和 2年5月 神戸百年記念病院

■ 資格／所属学会

日本内科学会総合内科専門医

日本循環器学会専門医

日本超音波医学会専門医

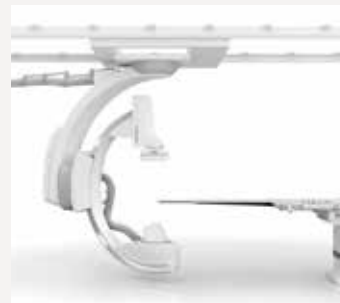
日本心臓血管インターベンション学会専門医

心臓リハビリテーション指導士



心臓カテーテル検査

心臓カテーテル検査とは、カテーテルを手首またはそけい部の動脈から心臓の血管(冠動脈)や心臓の中まで挿入し、心室内の圧を測定したり造影剤を使用して冠動脈の状態を見たり、心臓の動きを観察する検査です。血管からカテーテルを挿入して行う検査のため、2～3日程度の入院が必要となります。



心臓・血管の病気診断に役立ちます

♥ 狭心症

冠動脈の狭窄、硬化または痙攣によって心臓が虚血(十分な血液が行き渡らない状態)になり、胸の痛みや圧迫感を感じる病気です。

♥ 心筋梗塞

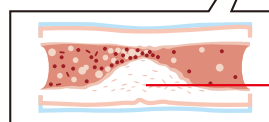
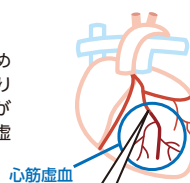
心臓に十分な血液が供給されずに心臓の筋肉が壊死を起こした状態です。急性心筋梗塞は日本人の三大死因のひとつです。

♥ 不整脈

心臓の電氣的刺激が何らかの影響によって極端に早くなったり遅くなったりする病気です。中には命に関わるようなものもあります。

狭心症

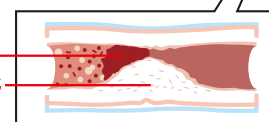
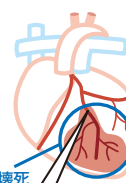
動脈硬化のため冠動脈が狭くなり一時的に酸素が不足する心筋虚血状態になる



血流が悪くなる

心筋梗塞

動脈硬化で狭くなっているところに血栓ができて血流の供給が途絶えて心臓が壊死する



血流がストップする

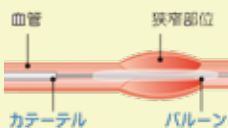
心臓カテーテル治療

心臓カテーテル検査の結果、血管のつまり（狭窄）を発見した場合は、カテーテルを使用した治療を行います。血管を広げる方法は主にバルーン治療やステント治療があります。

バルーン治療

1

バルーン（風船）がついたカテーテルを狭窄部位まで挿入



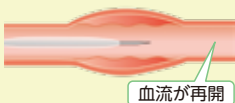
2

狭窄部位でバルーンをふくらませて、血管を押し広げる



3

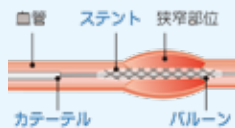
血管が十分に拡張したあと、バルーンを抜く



ステント治療

1

バルーン（風船）がついたカテーテルを狭窄部位まで挿入



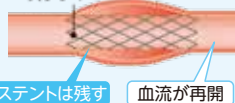
2

狭窄部位でバルーンをふくらませて、血管を押し広げる

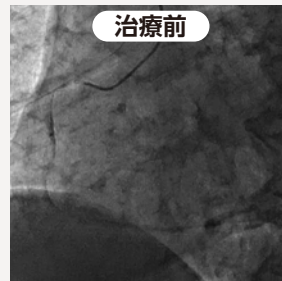


3

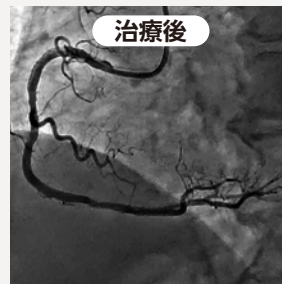
減圧してステントを残したまま、バルーンを抜く



治療前



治療後



2020年
12/12

市民公開講座で講演しました

「知っておこう、隠れた心臓の病気」と題して講演しました。病気の予防から治療まで、丁寧な説明で参加者からも好評でした。講演会の動画を公開していますので、ぜひご覧ください。



動画はこちらから

夜間救急に対する入院環境の強化を図る、 オーバーナイトベッド

24



インタビュー：
救急診療科 師長
急性重症患者看護専門看護師
山本 克英

地域の救急医療を支える強化対策の一環として整備してきた「オーバーナイトベッド」の運用。その取り組みについて、救急診療科の管理者である山本師長にインタビューをしました。

Q オーバーナイトベッドとはどのようなものですか？

A 基本的には、救急部門にあるベッドという位置付けの病床であり、わかりやすい表現にするなら、「一晩だけ入院していただくための救急専用病床」です。従来、救急外来へ搬送された患者さまは、病歴や身体所見から急変の可能性がある場合や帰宅前に精査を必要とする場合には、そのまま病棟へ入院していただきます。この流れは日中でも夜間でも同じですが、夜間はとくに看護師人数が少なくなります。また、診察している医師も病棟へ移動してからさまざまな指示を出すこととなりますが、「オーバーナイトベッド」を設けたことで緊急度に基づいた診療と効率的な治療を実践することが可能となり、24 時間 365 日救急外来で起きる患者さまの状態変化に対応し、安心・安全な医療を提供するためのシステムです。

Q すでに稼動しているのですか？

A 現在は、病院の中でも体制を整えるための助走期間だと考えています。現在は2床分をオーバーナイトベッドとして確保していますが、設備的な面と、看護スタッフの配置などの面で、完成形ではありません。私の中ではだいぶ前から、オーバーナイトベッドに対する構想がありました。救急外来で初期診療に携わった看護師が、そのまま病棟でも救急医療に対する看護を展開できる、こうした体制を整えることが、現在の救急分野では必要とされているのです。



Q オーバーナイトベッドを新設することで、患者さんのメリットはありますか？

A 大きく2つのメリットがあると考えています。1つ目は、「見知った顔の看護師に継続的に看護してもらえる」というのが、患者さまにとってのメリットだと考えています。オーバーナイトベッドは「夜間入院の専用ベッド」ですから、入院が必要というのがわかった時点ですぐにベッドの準備ができ、治療できる環境に患者さまをお連れすることができます。対応させていただく看護師も、病棟への入院だと変わりますが、救急外来から同じ看護師が受け持ちますので、救急搬送から入院まで、継続的な看護を提供できます。

患者さまとしても、最初に受け入れた看護師がそのまま夜も看るなら、安心できるのではないのでしょうか。夜間の救急搬送はただでさえ、患者さまご自身も、そしてご家族の方も、大きな不安を抱えているでしょう。その中で、救

急外来の看護師が、夜間も患者さまと一緒させていただくことが、オーバーナイトベッドの最大のメリットだと思います。すべてがシームレス、かつ、患者さまが安心できる環境であると思います。

もう1つは、早い段階で適切な治療をスタートできる、というもあります。救急外来で診察した医師が、その場で入院時の指示を出すことができますから、治療に対するタイムラグを生じることなく治療を開始できます。この点も、患者さまにとってのメリットではないでしょうか。



夜間専用の入院病棟として救急センターと同じフロアでスムーズな動線となる場所に開設をしました。患者さまの移動先を近くにすることで、継続した体調管理を救急センターのスタッフが担当できるので、患者さまにも負担の少ない安心した医療が提供できます。

Q 今後への展望についてお聞かせください

A 現在はまだ2床分ですし、オーバーナイトベッドの稼働時間帯も限られたものになっています。病院内で何かしら新しいシステムを構築するためには、やはり安全性や患者さまの安心感などを考慮しながら、少しずつ拡大していくことが必要だと思います。

当院では2021年の4月ごろをめどに、救急分野をユニット

化する準備を始めています。その具体策の一つが、オーバーナイトベッドです。

将来的にはベッド数も6床くらいを確保し、看護師も救急医療のエキスパートを育成しながら、より強固な体制を整えていきます。

新型コロナウイルス感染症に対する救急医療の取り組み

神戸百年記念病院では、地域の皆さまが通常の救急診療を安心して受けていただけるように、昨年から新型コロナウイルス感染症への対応を進めてまいりました。発熱患者の受け入れ体制については、昨年の6月15日に新型コロナユニット（3室）を病院の裏手の駐車場スペースに新規で設置し、PCR検査の実施も開始しました。救急の入口で感染者をしっかりと隔離し対応することで、院内感染を未然に防ぎながら、救急診療を行える体制を整備しました。11月16日には、新たに3室を追加し合計6室で運用をしています。



病院の裏手にあるコロナユニット。救急車からの搬入もスムーズな動線を整えています。



発熱患者を隔離する個室です。HEPAフィルターも完備し、換気の良い環境を整えています。



コロナ患者の増加を想定し、昨年11月に追加増設したコンテナ型の個室（3室）。

地域医療連携 連携医療機関のご紹介

当院では、地域の医療機関(かかりつけ医)との協力体制を強化し、地域全体として患者さまにより質の高い医療を提供していくことを目的に「連携登録医制度」を制定しています。

ここでは、常日頃よりご協力をいただいている連携医療機関の紹介をしていきます。

今回は、神戸市長田区の **福井クリニック**、**福井 俊彦院長** にお話を伺いました。

福井クリニック

【所在地】神戸市長田区神楽町6丁目9-10 小山ビル2F

【電話】078-612-0101

【診療科目】消化器科、循環器科、内科、眼科

【診療時間】午前9:00~12:30 午後15:30~17:30

【休診日】木曜・土曜の午後、日曜・祝日(※眼科は火曜午後も休診)

「地域に必要な医療とは？」を常に考え、 新しい取り組みにも挑戦する

1992年の開業以来、地域のニーズに合わせ診療の幅を広げ、現在では内科、消化器科、循環器科、眼科のほか、禁煙外来などの専門外来にも取り組んでいます。また新型コロナウイルスへの対応として、クリニックでは珍しい「発熱外来」も開設し診療をしています。

幅広い診療を行っているのは、この地域で「足りていない」診療を行っていこう、という私自身の強い想いがあります。一つひとつの診療内容はそれぞれが独立しているのではなく、いろいろな接点を持っています。たとえば、消化管と心臓のエコー検査から発展し、頸動脈のエコー検査も行うようになると、さらにもう少し範囲を広げて甲状腺疾患の診断を行うようになりました。長年取り組んでいる禁煙外来では肺機能検査も行いますので、COPDや喘息の診療も行うようになりました。患者さんの病状は一つではありませんから、自分自身の研鑽を積みながらこの地域のニーズに応えてきた結果が、今の診療スタイルへとつながっています。



私は自分自身を「何でも屋」と称しており、「今日はどの調子が悪いか」を患者さんとの対話で把握しながら、診療を進めています。クリニックで出来ない検査があれば、診察中の患者さんの目の前で神戸百年記念病院さんに電話をして検査を予約しています。緊急性が高い場合にはすぐに検査をしてもらうようお願いして対応いただけるので助かっています。今後も連携を強化し、地域の医療を支えていきたいと思っています。



神戸百年記念病院から

福井院長は、ご自身で「何でも屋」とおっしゃってましたが、医療以外にも実に幅広い知識をお持ちの先生です。禁煙外来学会の広報も担当されているそうで、ホームページの重要性をいち早く感じ、クリニックのホームページもご自分で一から作成し、現在でも情報更新をしています。また、クリニックの待合室に飾ってある写真は、先生が撮影されたとのこと。とても素敵な写真だったので、この記事に掲載する先生の写真撮影の背景としても使わせていただきました！

連携登録医をご希望される医療機関様へ

「連携登録医 登録申込書」をご用意しております。ご希望の場合は、地域医療総合支援センター(☎078-681-6250)までご連絡ください。

地域とつながるヒヤクネンの活動

～地域社会活動の紹介～

横尾老人クラブ健康教室 様

開催日時 2020年12月3日 (木)

開催場所 神戸市立横尾地域福祉センター2階

横尾老人クラブ様より、体力アップ、健康寿命の延長を目的とした講演会の開催依頼をいただき、当院リハビリテーション科、認定理学療法士、日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナーの佐藤による「天敵“腰痛”を知る!」を演題とした講演を実施しました。



神戸市婦人団体協議会 様 主催 あじさい講座

開催日時 2020年11月27日 (金)

開催場所 神戸市立婦人会館

神戸市婦人団体協議会様が主催される「あじさい講座」に参加しました。健康で元気に100歳を目指すをテーマに毎回講演をしています。当日は、当院の耳鼻咽喉科の岡 直人医師が登壇し、「鼻づまりで悩んでいませんか!～知っておきたい鼻の病気と治療～」と題してお話をしました。



おすすめ情報

絶品の鉄火巻きと、味わい深いうどんがセットで楽しめる!

手打ちうどん 大八



売り切れ必至の人気NO.1メニュー、鉄火巻き定食!

JR和田岬線の通り沿い、和田岬駅と病院の中間に位置する 手打ちうどん「大八」さん。当院職員も愛用する昭和風情の残るお店は、お昼時にはたくさんの方で賑わいます。今回は大人気のセット「鉄火巻き定食・うどん付き」と、「とり天うどん」を注文。鉄火巻き定食は人気のあまり12時台に売り切れてしまうこともあるらしいのでご注意ください! うどん屋さんで鉄火巻き? と思いますが、大きめのマグロは丁寧に処理してあって、シャリとのバランスも絶品です。うどんは、やわらかめでももちもちの太麺うどんに少し濃い目で甘い出汁がよく絡んで、とにかく美味しい! 寒い冬で冷え切った身体に染みこみます。ぜひ味わってほしい逸品です!



サクサクの衣でコーティングされた、ほくほくの鶏肉が絶品のとり天うどん!



兵庫県神戸市兵庫区浜山通 1-1-12
☎ 078-651-1110
🕒 11:00 ~ なくなり次第終了
📅 月曜日
🚶 市営地下鉄海岸線「和田岬駅」

市民公開講座のご案内 知って得する100年いきいきセミナー

神戸百年記念病院では、地域の皆さまが、いつまでも健康でいきいきと生活ができるように、
専門的な知識をもった医師が、講演を実施しております。
医療に関する最新情報を交えながら、病気のこと、治療方法、その予防方法についてお話しています。

大丈夫？ あなたの血糖値

～知って得する糖尿病の豆知識～

入場無料

内科
講演 ▶ 岩崎 真也 先生



日時 2月27日(土) 開場 ▶ 13:30～〔イベント開始〕
開演 ▶ 14:30～〔講演開始〕
神戸百年記念病院 1階ホール

パネルディスカッション・みなさまの質問にお答えします

イベント

相談
コーナー

■ おくすり相談
■ 健康相談

体験
コーナー

■ 検診
骨密度測定

予約制
15名限定

過去の公開講座の
動画が見れます

いま知っておきたい治療の最前線
内視鏡検査から消化器がん治療まで

【開催】2020年10月10日

内視鏡センター センター長
森主 達夫 医師



下肢静脈瘤という病気をご存知ですか？

【開催】2019年11月10日

血管外科
黒瀬 公啓 医師



骨粗鬆症の治療の考え方

【開催】2019年11月10日

整形外科
院長 朝田 尚宏 医師



右記の感染防止対策を
徹底して実施いたします。

- ◆ 参加人数を限定する
- ◆ 入館時の熱チェック
- ◆ 手指消毒の実施
- ◆ 席の間隔を2メートル確保する

- ◆ 窓を開ける等の換気対策
- 参加者の皆さまにおいても、マスク着用にて
ご来院をお願いします。

出張公開講座や、健康教室など地域のイベントにも積極的に参加しています。
ぜひ、【地域医療総合支援センター】まで
お気軽にご相談ください。

TEL.078-681-6111
FAX.078-681-6118



医療法人社団 顕鐘会

神戸百年記念病院

〒652-0855 神戸市兵庫区御崎町1-9-1
<http://www.kobe-century-mh.or.jp>

